

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立石井小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 122人 国語B 122人

② 算数A 122人 算数B 122人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

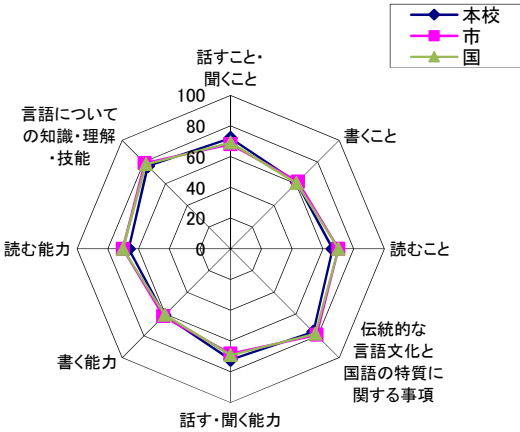
(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」, 「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立石井小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

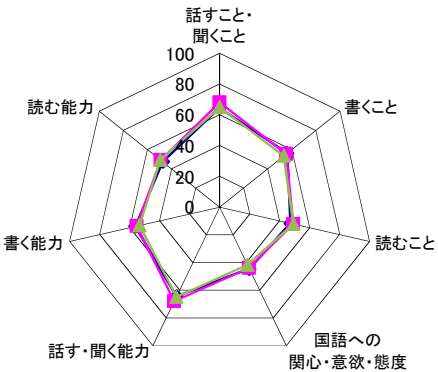
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	72.1	68.2	69.2
	書くこと	61.1	62.0	60.6
	読むこと	66.4	70.2	70.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.3	79.1	78.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	72.1	68.2	69.2
	書く能力	61.1	62.0	60.6
	読む能力	66.4	70.2	70.2
	言語についての知識・理解・技能	76.3	79.1	78.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	64.5	68.0	64.9
	書くこと	56.2	55.3	53.4
	読むこと	47.3	49.0	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	44.5	43.9	41.7
	話す・聞く能力	64.5	68.0	64.9
	書く能力	56.2	55.3	53.4
	読む能力	47.3	49.0	49.2
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

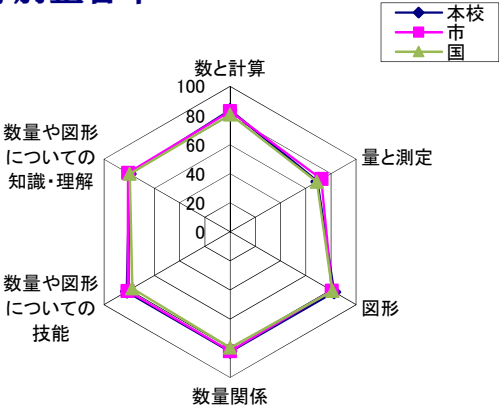
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら進みに沿って話し合うことができるかどうかを見る問題をよく理解している。 ●スピーチメモのよさを捉え40字以内で書く問題の正答率が低い。	・スピーチなどのまとまった発表を行う際には、発表原稿やスピーチメモを活用して話すことができるように指導をする。 ・○字以内で書くといった短答式の問題については、朝の学習や家庭学習などで取り上げていきたい。
書くこと	○目的や意図に応じ、文章全体の構成を考えることや、引用したり、必要な内容を整理したりしながら書くことについての問題の正答率が高い。	・他教科等の学習や生活の場面で、いくつかの情報を関係付けて考え、それらを基に説得する活動や説明する活動を設定する。また、情報の妥当性について考える機会なども多くもたせ、情報を正しく有効に活用できるようにする。
読むこと	●物語を読んで、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉えたり、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題の正答率が低い。	・優れた叙述に着目して読むことや、複数の叙述を相互に関係付けながら読むことができるようにするために、ワークシートを工夫したり、感想を記入したカードやノートを活用したりする。どの叙述に着目したのかを明確にして考えをまとめることができるような指導が必要である。 ・児童の読書活動を充実させるような工夫が必要である。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●俳句の情景を捉える問題や、古文における言葉のリズムや響きについての正答率が低い。 ●学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりする問題の正答率が低い。	・文語の調子に親しむことができるよう、季節感や風情、俳句に込めた思いなどを思い浮かべること、七音五音を中心としたリズムから国語の美しい響きを感じ取って、音読や暗唱することを指導する。 ・学習した漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中で正しく使うことができるように指導をする。

宇都宮市立石井小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

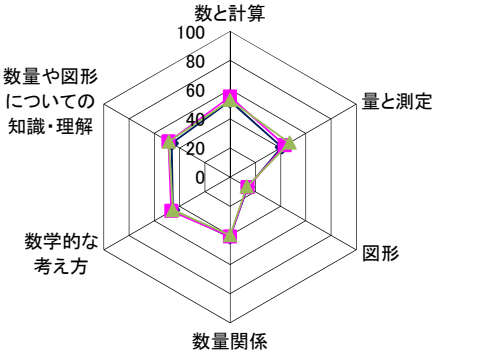
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	83.7	82.9	80.6
	量と測定	69.3	72.5	68.8
	図形	82.4	80.8	81.1
	数量関係	82.3	81.9	79.6
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	81.9	81.2	77.7
	数量や図形についての知識・理解	79.7	80.9	79.7



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	52.1	55.1	52.8
	量と測定	41.0	43.4	47.0
	図形	13.9	13.8	13.2
	数量関係	41.2	40.8	40.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	45.3	46.5	45.4
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	46.3	48.8	48.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○基本的な四則計算の技能は身に付いている。 ●計算の意味と計算の仕方を関連付けて考える問題の正答率がやや低い。 ●二つの数の最小公倍数を求めることができるかどうかを見る問題の正答率が低い。	・問題場面の二つの数量の関係を、図や数直線などに表してから、式を立てたり、解き方を考察したりする活動を設ける。 ・具体的な問題場面を基に、最小公倍数や最大公約数の意味について確実に理解できるようにする。
量と測定	●飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を判断したり、仮の平均を用いた場合の平均の求め方を言葉や式を用いて記述したりする問題の正答率が低い。	・日常生活や他教科での学習場面で平均を求める際、式の意味を場面や状況と関連付けて考察し、適切に平均を求めることができるようにする。また、平均がおよそどのくらいになるかを見積もったり、能率的に処理するために工夫して計算したりできるようにする。
図形	○正五角形は五つの合同な二等辺三角形で構成できることや立方体の面と面の位置関係を理解している。	・いろいろな正多角形の構成・分解などの活動を通じて、正多角形の性質を見いだしたり振り返ったりすることにより、その性質の理解を深めることができるようにする。 ・具体物を用いた活動を通じて、立体図形を切り開いてできる展開図や、展開図からできあがる立体図形を想像する機会を設ける。
数量関係	○数量を□などを用いて表し、その関係を式に表す問題や、資料を二つの観点から分類整理し、表を用いて表すことができる。	・未知の数量を□などの記号を用いて表現することにより、文脈通りに数量の関係を立式することができるようにする。 ・二次元表には、資料を二つの観点で分類整理することにより、集団の傾向をより的確に把握することができるというよさがあることを理解させたり、朝の学習や家庭学習で取りあげたりしていきたい。

宇都宮市立石井小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか」「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」の質問に対し肯定的な回答の割合が高い。規則正しい生活習慣が身に付いている児童が比較的多く、また、子供たちの生活を良くしようという保護者の意識も高いといえる。

○「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことはありますか」の質問に対して「当てはまる」と答えた児童の割合が87%と高く、目標をもって最後までやり遂げようとする意識や経験のある児童が多いことが分かる。

○学校の授業以外に2時間以上学習する児童が全体で34.1%と県や全国と比較して高い割合である。

●学校図書館や地域の図書館を利用している児童の割合や一日あたりの読書時間が県や全国の割合より低い。児童が進んで読書に取り組めるような指導が必要である。

○家の人の学校行事への参加率については、「よく来る」と答えた児童の割合が県や全国の割合より高く、保護者の学校への関心が高いと言える。

○地域の行事に参加したり、地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があると答えた児童の割合が高く、一人一人の児童の地域社会への関心が高いことが分かる。

○友達との約束を守ったり、人が困っている時は、進んで助けていると答えた児童の割合が高く、自分勝手な行動をせず、相手の気持ちを考えて生活しようとしていることが分かる。

○どの教科への学習意欲も高く、その学習は大切だと考えている児童の割合が高い。

宇都宮市立石井小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業におけるまとめ・振り返りの充実	授業のはじめに目標（めあて・ねらい）を示し、最後に学習内容を振り返る活動を計画的に取り入れ、「ねらい」から「振り返り」までのつながりを意識した指導をしている。	「5年生までに受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合が、県・市の平均と比べ上回っている。
家庭学習の習慣化	「石井っ子の学習」を全家庭に配付し、家庭学習への意識を高められるようにしている。また、自主学習の進め方を指導し、宿題だけでなく、進んで家庭学習に取り組めるようにしている。	「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」「家で、学校の宿題をしていますか」「家で、学校の授業の予習をしていますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合が、県・市の平均と比べ上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
字数制限のある短答式の問題の無回答率が、県や市の平均よりも高い。	自分の考えを書く活動の習慣化	字数や使用しなければならない語句の条件を段階的に増やすなど課題の提示の仕方を工夫し、条件に合わせて、自分の考えをまとめて記述する力を養っていく。また、始めから完璧な解答を求めず、児童に寄り添いながら思考の過程を励ますことで自信をもたせ、難しい問題に挑戦する意欲を高めるようにする。